

令和
8
年度

いじばのきまり 3



もくじ

一 国語じてんの使い方

二 漢字の表す意味

三 慣用句を使う

四 こそあど言葉

五 漢字の読み方

六 俳句に親しもう

七 くわしく表す言葉

八 漢字の組み立てと意味

九 ローマ字

みなさん、
いっしょに べんきよう
しましょうね。



ことばのきまり
イメージキャラクター
ことちゃん

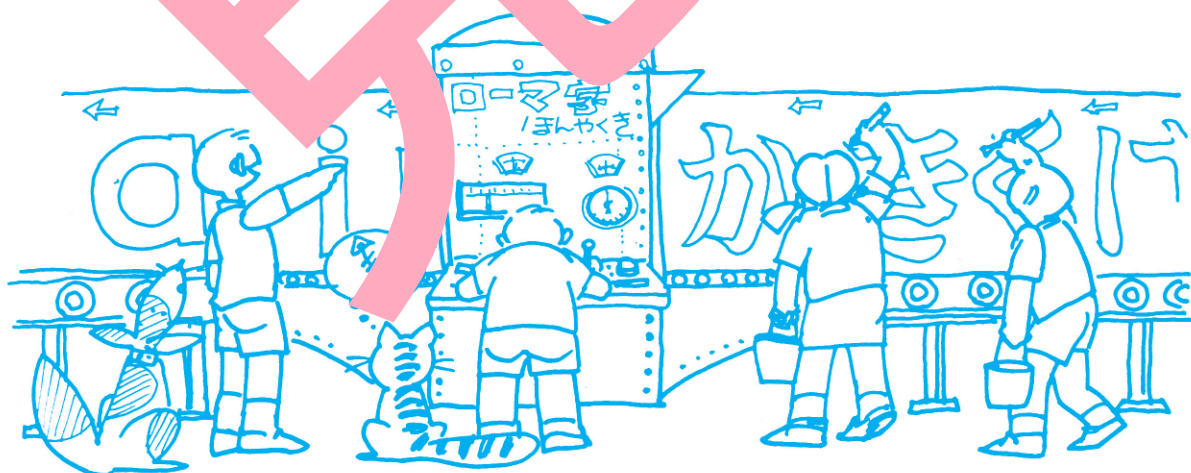
表紙 岡崎

カット

豊川幸
橋橋谷田

浅井 成田 嶋田 大須賀 中村 河合 伊藤
先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生
早紀先生 桂子先生 僚志先生 佐治先生 純先生 先生

38(1) 28 2 24 20 16 12 10 1





一 国語じてんの使い方

国語じてんは、

- ① 言葉の意
 - ② 漢字を使
 - ③ 言葉の使
- に書き表

などが分かります。

「く」で始まる
言葉が集められ
ているところ

このページには、「く
かん」から「くさ」ま
での言葉がのっている。

ことわざや慣用
句がのっている
こともある。

くかんーくさ

くかん 間 道路や線路で、ある地
点との間 一部の区間が運
った。
くき 茎 植物のじくで、
をつける部分。養
になっている。
くぎ 板などをとめ
するために打ちこむ先
●くぎを刺す まちがい
に、はつきり念をおす。
ないようにくぎをさす。

例

- ① ものごとの切
 - ② 詩や文章の切
- きり 【区切り】
【苦境】
【くぎ付】
【くぎをうちつ

ことば つか
言葉の使い方

ことば 意味
言葉の意味

かん じ つか
漢字を使った
書き表し方



言葉のならば方



① 国語じてんは、言葉が五十音

(あいうえおじゅん)でなら

↓じてんの横には目じるし

目じるしを目やすに

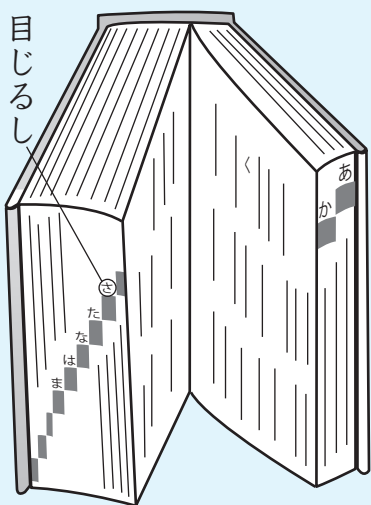
字目のだいたいのページ

早く調べるじゅもん(目じるし)

あ・か・さ・た・な・は・ま・や・ら・わ

↓二文字目、三文字目をあいうえおじゅんに

たどります。



(一) 「くき」の意味を国語じてんを使って調べま

しょう。

一文字目は

二文字目は

のまん中あたり。

三文字目は

あいうえおじゅんで前の方。

見てみよう



「国語じてんの使い方」

多くの国語じてんには、次のようなきまりがあります。

② 清音（カ・サ・タ・ハ行）

だく音（ガ・ザ・バ行）

半だく音（パ行）

のじゅんにならんでい

③ かたかなの長音を表す「ー」は、

「チーム」↓「ちいむ」のように、

「ー」の、前の音を長くのばした

ときの「あ・い・う・え・お」に

おきかえてならべてあります。

④ 小さく書く「っ」や「や・ゆ・よ」は、

ふつうに書く字の後にならんでいます。

〈れい〉 ー ひよう

2 ひよう

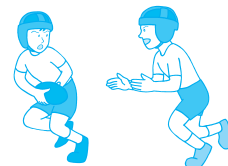
(二) 国語じてんに出てくるじゅんに、1、2、3の

番号をつけましょう。

（ ）パス

（ ）バス

（ ）はす



(三)

次の言葉の「ー」を「あ・い・う・え・お」におきかえて、国語じてんをつかって意味を調べま

しよ

ピー

↓ すぴ

ち

ち

み

ー

ぶ

る

意味



(四) 国語じてんに出てくるじゅんに、1、2の番号をつけましょう。

1	
()	()
()	()
さつき	さつき

(五) 国語じてんに出てくるじゅん

1		
()	()	()
()	()	()
あき	なつ	はる

4		
()	()	()
()	()	()
かく	かぐ	がく

2	
()	()
()	()
きよう	きよう

2		
()	()	()
()	()	()
てんけ	てんけ	てんき

5		
()	()	()
()	()	()
し	し	し

3	
()	()
()	()
りゅう	りゅう

3		
()	()	()
()	()	()
ボール	ボール	ホール

6			
()	()	()	()
()	()	()	()
びょう	ひょう	ひょう	びょう





形をかえる言葉

ことば

日本語には、形のかわる言葉が
たとえば、「飲む」という言葉
のように形をかえる言葉が

国語じてんを使うときに

① 動き（動作）を表す言葉は、

② 様子を表す言葉は、

「飲む」という言葉は「飲む」という言葉によって文の中で「飲まない」「飲みます」「飲めば」
「飲む」という言葉は「飲む」という言葉によって文の中で「飲まない」「飲みます」「飲めば」
「飲む」という言葉は「飲む」という言葉によって文の中で「飲まない」「飲みます」「飲めば」

「飲む」という言葉は「飲む」という言葉によって文の中で「飲まない」「飲みます」「飲めば」
「飲む」という言葉は「飲む」という言葉によって文の中で「飲まない」「飲みます」「飲めば」
「飲む」という言葉は「飲む」という言葉によって文の中で「飲まない」「飲みます」「飲めば」

(一)

でかこまれた言葉の中で、国語じてんにのって、言葉をかえる言葉は、えらんで○をつけましょう。

（ ） ぼくは、水を飲まない。
（ ） ぼくは、水を飲みたい。
（ ） ぼくは、水を飲む。

（ ） 空が青かった。
（ ） 空が青い。
（ ） 空が青い。





様子を表す言葉の中で、言い切りの形が「だ」に注意がひつようです。

〈れい〉

外はとも **しずかに** になった。

しずかに ↓ ×

しずかだ ↓ ×

しずか ↓ ○

言い切りの形「だ」に注意。
「だ」をのぞいた言葉は、

5			3		
()	()	()	()	()	()
()	()	()	()	()	()
かばんが	かばんが	かばんが	みんなのもの	わたしは、	わたしは、
け	軽	い	のこ	ご	を
ける。	かる	い	食べ	べた。	食べる。
6			4		
()	()	()	()	()	()
()	()	()	()	()	()
この	きれいな	きれいな	目と	目と	目と
は	人	人	と	と	と
きれ	い	い	じ	じ	じ
いだ。	がある。	がある。	ろ。	る。	れ
	はくつを	はくつを			思い出
	きれ	きれ			す。
	いに	いに			
	した。	した。			



(二) 次の――の言葉を国語じてんひくときの形に直しましょう。

〈れい〉 ぼくたちは、お父さんをつまですりしました。

1 お姉さんは、図書館へききました。

2 男の人が「あそこに人がな。助ける。」と消ぼうしにさけんた。

3 おばさんの作ったりよう理は、とてもいしかった。

4 どの本も全部おもしろそうだ。

5 あちらの部屋からにぎやかな話し声が聞こえてきた。

6 友だちには親切にしよう。



() () () () () () ()
() () () () () () ()
見送る



言葉のえらび方

日本語には、発音が同じ言葉でも、意味が異なる言葉があります。

〈れい〉

あめ
雨 (あめ)



言葉の前後の文を読み、いちばん合う意味をえらぶよ。



(一) 次の文の「あう」はどちらの意味ですか。国語じてんで調べて○をつけましょう。

・わたしは、ひさしぶりにあうやくそくをした。

会う (あう)

一つの言葉に、たくさんの意味がある場合があります。国語じてんで調べていちばん合う意味をえらびましょう。

えらびましょう。

(二) 次の文の「あう」の意味が国語じてんで調べたら、

どのような意味があることがわかりました。どの意味で使われているか一つえらびましょう。

・わたしの姉は、細かい心づかいのできる人です。

(一)

- ① 非常によく
- ② よく
- ③ 心が
- ④ ちく
- ⑤ ナ

ことではない



(三) 次の文の中で、
——の言葉の
味を国語じてんを使って調べましょう。

うきうきする音が、ありはまに元ります。

2 まわりの色がへんかする
、体の色がかわっていく、生かします。

3 コノハチヨウの羽は、表はあざやかな青とオレンジ

4 つぼみさんが、首をかしげていると、むすめは言いました

意味いみがたくさんあるものは、
いちばん合う意味いみをえらぼう。





二 漢字の表す意味

一つの漢字が、いくつかの意味を表すことがあります。たとえば「二等」の「等」は、「もののじゆん」を表し、「平等」の「等」は「同じ」の意味を表しています。

(一) の中にある次の漢字は、それぞれどのような意味を表していますか。意味のちがいによって分けてみましょう。

2

金

黄
金

お
金

1

書

本

書く

金
金
金のゆびわ
金メダル

書
書写
清書
説書



調べてみよう



漢字ペディア
「漢字一字」



(二)

次の



の漢字を

からえらんで線でむすびましょう

言

それぞれどんな意味を表しているでしょうか。

あてはまる意味を下

1

通

通路

通学

・

・

通

通る

2

行

行動

行進

・

・

行

行く

3

着

着物

着せき

・

・

着

着る

5

回

一回

回転

・

・

回数

回る

6

足

足もと

足

・

・

足

足

親

両親

親

・

・

親しい





三 慣用句を使おう

二つ以上の言葉がむすびついて「**（れい）顔 + 広い**」↓「**顔が**」
 つな意あ、表す言い方を**慣用句**といいます。
 知り合いが多い。

(一) 次の○に、図にある部分を入れ、づけて読みましょう。



さんこうにしよう



「ことわざ・慣用句の百科事典」



(二) 次の文の――の部分^{ぶぶん}を言いかえ、のどの慣用句^{かんようく}になるでしょう。()に書きましょう。

1 遠足で十キロも歩くと、足がどくつた^{どくつた}。たろうな。

2 しなければいけない^{しなけらばいけな}いことだ。

3 お母さんには、ないしよにする^{ないしよにする}つ。なのに、いつもうつかりしやべ^{うつかりしやべ}してしまう。

4 毎朝、家から駅^{えき}までのそうじをしている人を見か^{みか}。は心^{こころ}が^はりつ。

5 もし、写生会^{しやせいかい}入せん者^{しや}に自分の名前がよばれた^{よばれた}。聞きこ^{きこ}いでは、^いと思うにちがいない。

頭^{かぶ}が下がる 手をぬく 口^{くち} ベ^べ

足^{あし}がぼうになる 耳^{みみ}をうたがう



(三) 次の慣用句の意味は下のどれにするでしょう。線でむすびましょう。

1 さじを投げる

•

どうにもできないこと。

2 水に流す

•

かないとあきらめる。

3 手も足も出ない

•

の強いものに、さらにいきおいを加える。

4 火に油を注ぐ

•

たいへん好きなこと。

5 舌をまく

•

前にあったふゆかいなことがなくなったことにする。

6 目がない

•

たいへんおどろいたり、感心しする。

(四) いろいろな慣用句とその意味について調べ、表にまとめてみよう。

慣用句	意味



ちょうせんしてみよう

「ことわざ・慣用句四択クイズ 100」



(五)

1 次の慣用句の意味を調べ、それを使った短文を作りましょう。
歯を食いしばる

意味

短文

2

耳をかたむける

意味

短文



四 こそあど言葉^{ことば}

(一) 男の子が、女の子に何か言っている。それぞれ絵が、どんな話をしているか、線でむすびましょう。



このねこ、
かわいいだろう。

その
わいいな。

ぼくんちのねこは、
あのねこだよ。

きみんちのねこ、
どのねこのの？



(二) 友だちと動作をつけて次のよう^{どうさ}にけきをして、「こそあど言葉^{ことば}」について考えてみましょう。

あつし 「あつ、あそこにせ^{つぎ}るよ。」

みどり 「どこ。ね、どこに^るの。」

あつし 「あの木^のほら、^の。」

みどり 「ああ、あそこ^の。」

あつし 「そのあみで、^の。」

みどり 「このあみで、とどくかし^の。」



「こ・そ・あ・ど」で始まる、物事・場所などを指^さしめ^めはたら^{はたら}く^{ことば}「こそあど言葉^{ことば}」
 といいます。

- ① この・これ・ここ・こちら・こんな……自分の近^きにある^{ある}ものや場所
- ② その・それ・そこ・そちら・そんな……相^あ手^ての近^きにある^{ある}ものや場所
- ③ あの・あれ・あそこ・あちら・あんな……自分からも相^あ手^てからも遠^{とほ}くにある^{ある}ものや場所
- ④ どの・どれ・どこ・どちら・どんな……いくつかある中では一^{いち}つを指^さす^{ことば}「こそあど言葉^{ことば}」





「こそあど言葉」は、文章の
前に出たものを指すときにも使います。

〈れい〉母が、プリンを作った。
まじ。こいわたしの太こう物です。

※「これ」は、「プリン」を指しています。

(三) ——— の言葉は、何を指しているのでしょうか。
でかこみましょう。

1 向こうで大きな音がした。聞いた店の人たちは、急に表へてきた。

(向こう ・ 音 ・ 店の人たち ・ 表)

2 つくえの上にえんぴつがあります。それを取ってください。

(つくえ ・ 上 ・ えんぴつ)

3 「空を丸いものがとんでいるよ。」「あつ、ほら。それはいい何か。」

(空 ・ 丸いもの ・ いったい)

4 花がさいている。これを妹にプレゼントしよう。

(花 ・ 妹 ・ プレゼント)



やってみよう



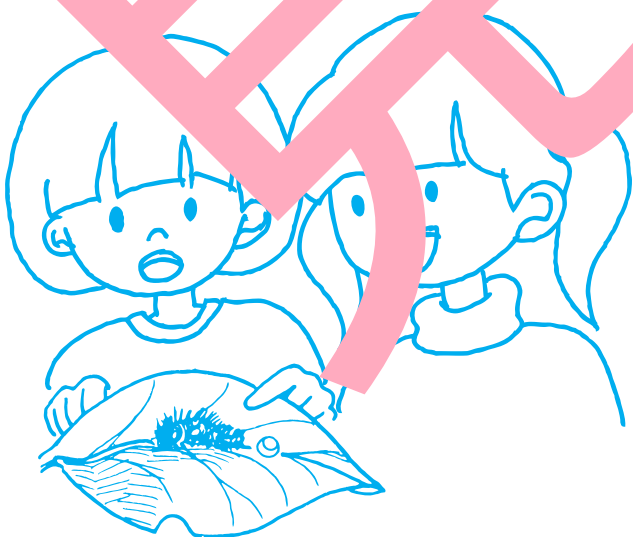
「こそあど言葉」



「ねえ、ちかちゃん、ちよつと見
あきちゃんは、一まいの葉^はをわ
た。その上には、よ^うがいまし
「これは何かなあ。」
と、わたしが聞くと、あきち
「たぶん、黒アゲハのよう^うだと思^う
と言いました。よう虫は、葉^はっぱの上でじ^じとし
ています。体は、黒に白のまだらもよう^うで、五ミ
リぐらいでした。あきちゃんは、虫かごに、よう
虫のついている葉^はっぱを入れて、
「この中で、チョウになるまで育^{そだ}ててみるよ。」
と言いました。

(四) 上の文章の中から、「こそあど言葉^{ことば}」を三つさが
して——を引きましょう。

(五) (四)で——を引いた「こそあど言葉^{ことば}」は、何を指^さ
しているのでしょうか。指^さしている言葉^{ことば}を
み、「こそあど言葉^{ことば}」と線でむすびましょう。



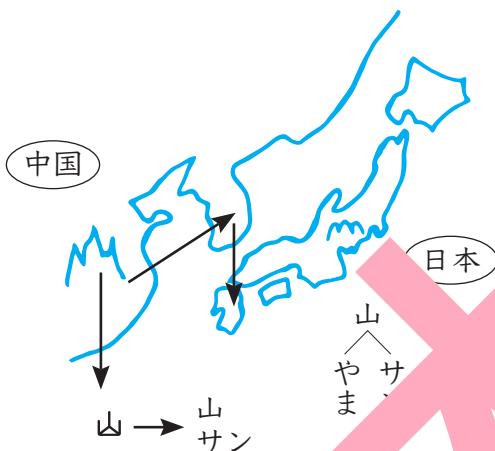


かんじ 漢字の音訓

五 漢字の読み方

今からおおよそ千五、六百年く、中国へ日本へ漢字が伝わってきました。「山」「火」「川」を「サン」「カ」「セン」と読むようになったものです。

また、日本には、漢字が伝わってきたので、同じ意味の言葉があつたので、同じ漢字を当てはめて読むようになりました。



山に登ることを中国人は「登」と書き、「トザン」と読んでいたのだから、日本人が「山登り」と読みかえていいのです。また、日本の成り立ちを知ると、「山」の読み方（山）の

「サン」・「カ」・「セン」は中国から伝わった読み方です。「やま」・「ひ」・「かわ」は日本の言葉を当てはめた読み方です。

「音」

「訓」



次の――をつけた漢字に読みかえよう。

1 あ の 山 は、―― 山 だ。

金 曜 日 に お 金 を は ら う。

3 花 び ん の 中 の 美 し い

で 遊 ぶ。

5 か ぶ と 虫 の よ う だ

6 「火の用心」、マッチ 火事のもと。

(一) 右のそれぞれの漢字は、一文字で何通りもの読み方をもちます。漢字はどうでしょう。教科書など

で読み方を調べ、音はかたかなで、訓はひらがなで書きます。

訓	音	漢字
ゆ	トウ	湯
		場
		炭
		体
		音
		氷



(二) 次の漢字に読みがなをつけましょう。
 次は読みがなをひらがなで書き

1 空 空
 2 船 船
 3 兄弟 兄弟
 4 左右 左右

「空」の場合、「クウ」と読みますが、意味が分かりません。と訓読みすると、意味が

「船」「弟」「左」なども、音では意味が分かりにくいですが、と訓読みすると、意味が分かる漢字です。

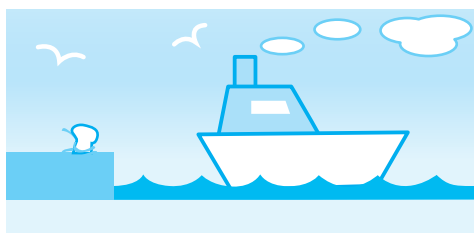
(三) 教科書やじてんなどを見て、次の音訓表をうめましょう。
 教科書やじてんなどを見て、次の音訓表をうめましょう。

訓	音	漢字
はこ	×	箱
		畑
		皿
		感
		意

中国から伝わってきて、
 作られたものです。

(四) 次の言葉を、送りがなに気を
て漢字で書きましょう。

1	この道は	ほそい
きまりが	こま	
	い	
2	洋服が	きる
か港に	く	
3	夜が	あける
部屋が	あかるい	



「細」という漢字は、「ほそい」「こま」のように、訓読みがいくつかあります。「細い」「細かい」を引いた送りがなは、「細」の読み方や意味をはっきりとさせます。

(五) 漢字の読み方に気をつけて、送りがなをつけよう。

1	サケが川を上	
	()	
花火が上		
()		
2	荷物が重	
	()	
本を重		
()		
3	学校に通	
	()	
言葉が通		
()		





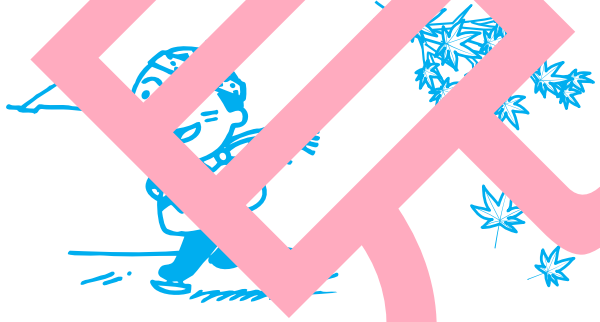
六 俳句に親しもう

俳句は、五・七・五の十七音（おん）で形のある詩（し）です。俳句は江戸（えど）代（だい）に入（い）るの（の）につうです。世界（せかい）でいちばん短い定型詩（ていけいし）（決まった）「季語（きご）」を一つ入れ（い）て、うき（うき）りがあ（あ）ります。かんになりました。また、俳句（はいく）には、季節（きせつ）をしめす

(一) 次の俳句の音の区切りを（ ）に、——をひいた
季語の季節を書きましよう

- 1 雪とけて村一ぱいのこどもかな
()
- 2 夏草やつわものどもが夢のあと
()
- 3 一枚の紅葉かつ散る静かさよ
()
- 4 スケートのひもむすぶ間もはやりつつ
()

(山口誓子) (高浜虚子) (芭蕉) (小林一茶)



見てみよう



NHK for School

おはなしのくにクラシック
「雪とけて～俳句①春・夏～」



NHK for School

おはなしのくにクラシック
「柿食えば～俳句②秋・冬～」



(二) 次の俳句は、小学生の友だちの作品です。俳句に表されている季節はいつでしょう。 ———— の部分を

手がかりにして（ ）の中に即書きましよう。

1 ひまわりや 青空高く のびいけ

()
()

2 北風が くちぶえふ た

()
()

3 川の土手 によきによき つくしの子

()
()

4 初泳ぎ ロケットみたいに かべをけ

()
()

5 入学式 はじまる前の しんこきゅう

()
()

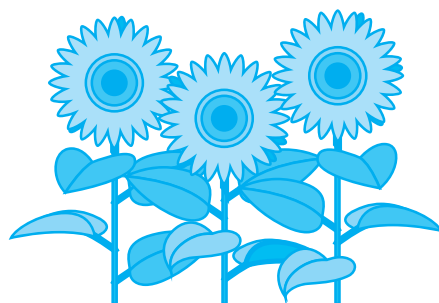
6 柿落ちる アリの大群 止まったまま

()
()

さんこうにしよう



NHK for School
お伝と伝じろう
「今日は句会」





七 くわしく表す言葉 あらわ ことば

〈れい〉 花が さいた。

赤い どんな 花が さいた。

花が きれいに どのように さいた。

右のれい文を見ま
「きれいに」は、どのよ
の様子をくわしく表す言葉 ようす あらわ ことば

「花」 どんな 様子かをくわしく表しています。また、
からえらび、（ ） あらわ しています。このように、
の言葉 ことば

どんな

1 たてものが え える。

4 えん が

どのように ねむる。

2 風が ふく。

5 えん が

ふる。

3 問題を もんだい とく。

6 えん が

とんだ。

かんたんな すずしい 白い

すや 高く ザーザー



(一) 次の文から主語とじゅつ語を抜き出し、主語には――、じゅつ語には――を引きましよう。

1 弟がおかしを食べる。

2 ひなたで犬がやすやすする。

3 彼の話はいつも

4 姉がたくさんの折り紙をわたしにくれた。

(二) 次の文からくわしく表す言葉をさがし、――を引きましよう。

1 赤いチューリップの花がさく。

2 彼のえんぴつがつくえから落ちる。

3 とてもきれいな鳥が屋根にいます。

4 わたしはきのう大人気の映画を見に行った。



やってみよう



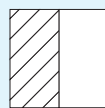
「くわしく表す言葉」

まず、このじゅつ語を
たしめると、だね、れから
「何を」「何に」「や」「いつ」
「で」「どのように」と
「したくわしく表す言葉」を
たしかめてみよう。



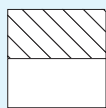
八 漢字の組み立てと意味

漢字は、いろいろな意味や読み方を表す。部首は、漢字の一部分を指し、漢字の七つに分けることができる。部首は、漢字の組み立てられていますが、それらをいちによってなにかま分けすると、



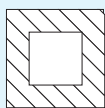
へん

〈れい〉



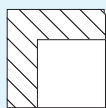
かんむり

〈れい〉



かまえ

〈れい〉



たれ

〈れい〉

一つ一つの部首には、それぞれに名前がついています。それらをいけば、漢字をおぼえたり、

花

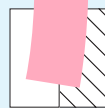
〈かんむり〉

国

〈くにがまえ〉

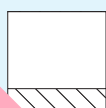
広

〈まだれ〉



つくり

〈れい〉



あし

〈れい〉



う

〈れい〉

頭

〈おおがい〉

急

〈こころ〉

急

〈しんによう〉

(一) 次の の中に、漢字を書きまよう。

1 お日さまが出て、

は

れなる。

2 明日のお

ひる

はピクニックに行こう。

3 お日さまが出て、

か

る。

今日はとくに

あつ

くなる。

「日」のつく漢字には、日さまにばかりのある漢字が多いことが分ります。

5

うみ

には、水がたくさんある。

7

大きな水たまりが、

いけ

になりました。

「シ」のつく漢字には、水につながるのがある漢字が多いことが分ります。



(二) 次の部首のつく字を左からえらび、
に書きましょう。

1

日	言	シ	禾	木	イ
ひへん	ごんべん	さんずい	のぎん	きへ	にんべん

2

かんむり	かんむり	たけかんむり	おおかい	のぶん	あくび
うかんむり	かんむり	たけかんむり	おおかい	のぶん	あくび



板	暗	記
店	広	作
思	放	明
頭	週	歌
計	算	点
室	家	秋
茶	海	原
答	通	回
図	教	村
葉	開	顔
汽		間

5

かまえ

門

もんがまえ

くにがまえ

心

こころ

あし

れんが

れっか

6

たれ

走

そうによう

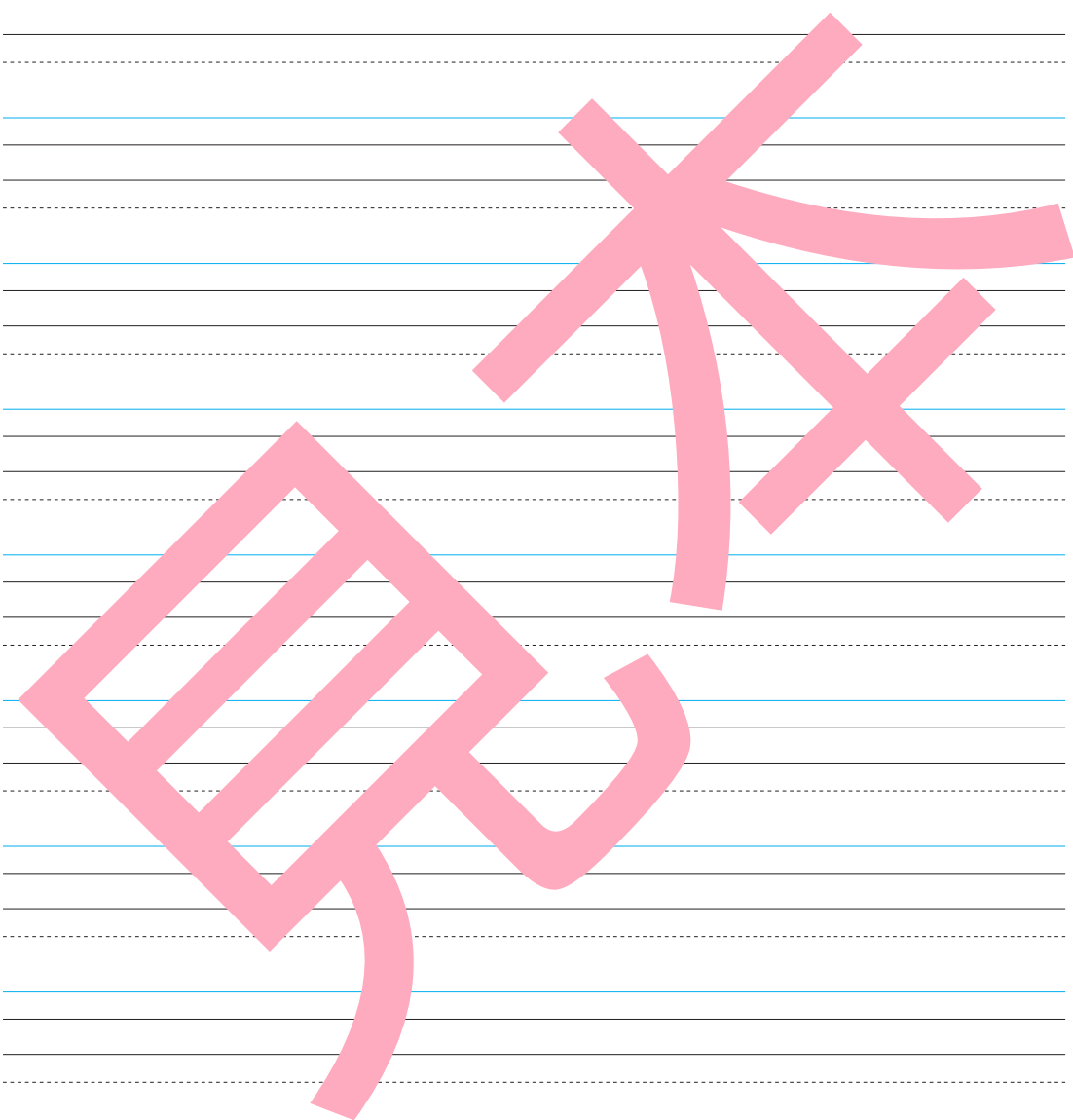
によう

しんによう

まだれ

がんだれ

(9) いろいろな言葉^{ことば}をローマ字で練習^{れんしゅう}してみましょう。





パソコンを使うとき^{つか}

コンピュータで文を書くときは、キーボードを使います。

キーボードでローマ字入力を行うとき、習ったローマ字の使い方とちがうときがあります。次の文字は、どちらの方法でも入力できます。

し… **S H I** または **S I**

ち… **C H I** または **T I**

つ… **T S U** または **T U**

ふ… **F U** または **H U**

じ… **J I** または **Z I**

(8) 次の文字をキーボードで入力するときに、正しいものを二つえらんで○をつけましょう。

① 「し」

so

shi

sh

② 「す」

uki

sushi

usi

sumi

③ 「もち(道)」

nti

nati

nichi

mochi

④ 「ふく」

fuk

fu

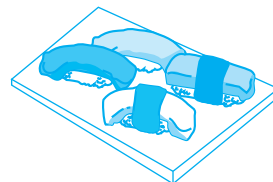
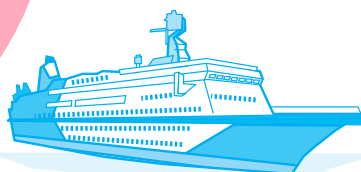
fuku

huku

練習してみよう



プレイグラムタイピング
「タイピングれんしゅう」
※タブレットにキーボードを
つないで行いましょう。



(5) 次のひらがなをローマ字で書きましょう。

① きょうりゅう

② おもちゃ

③ らっぱ

④ ほんや



ローマ字のきまり (2)

ローマ字では、人の名前や土地の名を大文字で書きます。
の文字を大文字で書きます。

Noguchi Hideyo = 野口英世

(6) 自分の名前をローマ字で書いてみましょう。

(7) 自分の学校の名前をローマ字で書いてみましょう。





ローマ字のきまり (1)

- ① のばす音は、-のしるしをのばしたい音の母音^{ぼいん}の上につけるか、母音を重ねます。

おばさん = **obasan** → おばあさん = **obāsan**
(obaasan)

- ② 小さい「や・ゆ・よ」のつく音は、母音^{ぼいん}と子音^{しいん}の間に **y** や **h** を入れます。

でんしゃ = **densha** きよりき **kyori**

- ③ 小さい「つ」のつく音は、「つ」を **ts** とし、場所のすぐあとの子音^{しいん}を二つ書きます。

にっし = **nisshi** きって **kitte**

- ④ 「,」は、切るしるしとして使います。

パンや = **pan'ya**

- (4) 次のローマ字をきまりで読みましょう。

① **brood** ()
(brook)

② **imōto** ()
(imouto)

③ **ashin** ()

④ **tanokan** ()

⑤ **nikki** ()

⑥ **roketto** ()

⑦ **gin'iro** ()

⑧ **zen'in** ()

⑨ **kyūshoku** ()

⑩ **yakyū** ()
(yakyuu)

⑪ **otōto no hon** ()
(otouto no hon)





ローマ字を書くときに気をつけることは、字を書くいちです。
れんしゅう
練習をするときには、4本の線に書きます。多くの文字は、上から2本目と3本目の間に入りますが、中にはいちばん上の線や、いちばん下の線まで出るものもあります。高さや長さに気をつけて書きましょう。

(3) 次のひらがなをローマ字で書きましょう。

① あお

②

③ すし

④ た

⑤ はる

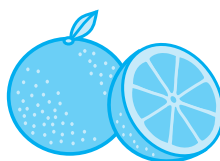
⑥ ま

⑦

⑧ ぼ

⑨ おんぶ

⑩ みかん





ローマ字の五十音は、^アa・^イi・^ウu・^エe・^オoという母音と、^ぼk・^いs・^んt・^しn・^いh・^んm・^んy・^んr・^んwという子音を組み合わせで作られています。

(「あいうえお」は母音だけでできています。)

子音は、五十音の表で行を表します。母音は、段を表します。
たとえば、「す」は「サ行・ウ段」ですから、サ行を表す「**s**」と、
ウ段を表す「**u**」を組み合わせた「**su**」と書きます。

「ん」は、この組み合わせの中には入らず、「**n**」だけで表します。

- (1) 次のローマ字を読んで、() の中に () のように書きましょう。
- ① taki () ② ka ()
- ③ sumire () ④ himawari ()
- ⑤ yakiniku () ⑥ minamori ()
- ⑦ salamatsu () ⑧ shiratsuyu ()



「ガ・ダ・バ」の音 (^{おん} ぐ・だ・ば) も五十音と同じように、
g (^ぎ)・d (^ぢ)・b (^び) の行と子音と、^しi・^んu・^んe・^んoという
段を表す母音の組み合わせで表します。

また、「パ・タ・カ」の音 (^{おん} ぱ・た・か) は、pと^しa・^んi・^んu・^んe・^んoという
段を表す母音の組み合わせで表します。

- (2) 次のローマ字を読んで、() の中に書きましょう。

- ① hige () ② bingo ()
- ③ daruma () ④ zarigani ()
- ⑤ soroban () ⑥ sanpo ()



9 ローマ字

日本語の書き言葉^{ことば}には、漢字^{かんじ}、かな文字のほかにローマ字があります。
ローマ字の仕組み^{しくみ}を調べてみましょう。

左のローマ字表^{ひょう}を見て、正しく書く練習^{れんしゅう}をしましょう。

	(大文字)	ア段 ^{だん}	イ段 ^{だん}	ウ段 ^{だん}	エ段 ^{だん}	オ段 ^{だん}	(ヤ)	(ユ)	(ヨ)
(大文字)		A	I	U	E	O			
ア行		a	i	u	e	o			
カ行	K	k							
サ行	S	s							
タ行	T	t	c						
ナ行	N	n							
ハ行	H	h		f					
マ行	M								
ヤ行		y							
ラ	R								
ワ行		w							
ン	N	n							
ガ行	G	g							
ザ行	Z	z	j				j	j	j
ダ行	D	d		z			j	j	j
バ行	B	b							
パ行	P	p							

Rōmaji no hyō

		ア段 A	イ段 I	ウ段 U	エ段 E	オ段 O	(ヤ)	(ユ)	(ヨ)
ア行		a	i	u	e	o			
カ行	K	ka	ki	ku	ke	ko	kya	kyu	kyo
サ行	S	sa	shi	su	se	so	sha	shu	sho
タ行	T	ta	chi	tsu	te	to	cha	chu	cho
ナ行	N	na	ni	nu	ne	no	nya	nyu	nyo
ハ行	H	ha	hi	fu	he	ho	hya	hyu	hyo
マ行	M	ma	mi	mu	me	mo	mya	myu	myo
ヤ行	Y	ya		yu		yo			
ラ行	R	ra	ri	ru	re	ro	rya	ryu	ryo
ワ行	W	wa				(o)			
ン	N	n							
ガ行	G	ga	gi	gu	ge	go	gya	gyu	gyo
ザ行	Z	za	ji		ze		ja	ju	jo
ダ行	D	da	(ji)	(zu)	de	do	ja	ju	jo
バ行	B	ba		bu	be	bo	bya	byu	byo
パ行	P	pa	pi	pu	pe	po	pya	pyu	pyo

令和 年度版 ことばのきまり 3年

編集 「ことばのきまり」編集委員会
三河教育研究会

刊行 公益財団法人愛知教育文化振興会
〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地 1
電話 0564-51-4819

印刷 株式会社 岡田印刷

※無断で複写・複製することを禁じます。

※外部ホームページリンク先は、予告なく変更・削除されることもあります。





名前

年

組

観察